

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都市】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	京都市立桃山東小学校 全児童 485人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	「ブラインド・サッカー」選手の講演を聞くなかで、スポーツの素晴らしさに気付き、パラリンピックへの関心を高めるとともに、選手の願いや思いを知り、障害や障害をもつ人への理解を深め、自分にできることを考えようとする態度を育てる。
5 取組内容	○事前学習 ・オリンピック・パラリンピックについて知る。 ・ブラインドサッカーについて知る。 (NHKアニメ・パラスポーツより) ○11月21日、全日本キャプテンの川村怜選手を招き講演会を実施。 ・ブラインドサッカー協会が作成した映像で、ルールを知る。 ・川村選手から、ご自身の努力や思いについて話をしていただく。 ・6年生が実際に体験をする。 ・子どもたちへの願いを話していただく。 ・子どもたちの質問・感想。





○事後学習

- ・お話を聞いて、学んだことをまとめ、交流する。

6 主な成果

- ・川村選手の人柄もあるが、子どもたちに身近で親しみやすく、話の内容も前向きであったので、子どもたちの関心は高まり、目標に向かって努力することの素晴らしさやスポーツの素晴らしさに気付くことができた。選手が体育館に入った途端、全校児童から拍手がおこったり、学習の終わりには、児童から自然に選手に握手を求めたり、最終的には全校児童が握手をしたことから、良い出会いとなり、子どもたちの心に残る貴重な時間になった。
- ・ブラインドサッカーについてのルールや道具について知ることができた。
- ・実際にボールを蹴る体験をして、その難しさや選手の凄さを感じることができた。
- ・自分の悩みを打ち明ける子ども、自分と照らし合わせて考える子どもの感想が見られ、自分に向き合い、自分の生き方を考える機会をつくることができた。

であ。その中で聞いて、一番心を
 うたれたのが、こういう言葉です。
 目が元気がいいから、相手を思
 やり、コミニケーション。ソを
 このことと聞いて、人にかん心
 に矢がささりました。視力がな
 か片っすう川村さんにしけな
 りば、早く思いました。バスケット
 ぼくがバスケットをしたら、あ
 けれど、その人が、ボールが
 に、あんなに、心な
 持ちは、あんなに、心な
 川村さん

← 子どもの感想より



全校児童と握手

7実践において工夫した点 (事業の特色)

- ・子どもたちに良い出会いとなるよう、現役の全日本のキャプテンに来てもらえるようにした。
- ・子どもたちが体験できるようにブラインドサッカー用のボールとアイマスクを用意した。
- ・ほとんどの子どもが初めて知るスポーツなので、事前にアニメで見せておくことで、興味をもつことができた。来ていただける方がー

	<p>人だったので、団体のスポーツであることを理解できるように、当日は、映像を使ってゲームを見せるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 来校される際、ご自身一人で来られたが、駅から学校までは送迎するようにした。 • 見えないことがマイナスにならないよう、ご自身の話の中では、つらさや困りなどの話ではなく、サッカーができて楽しいことやスポーツの素晴らしさを伝えるようにされていた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 忙しい中、東京から来ていただくため、当日は 1 時間の設定だった。子どもたちは、名残惜しそうにしていたので、もっと話したり質問したりできる時間を取ることができれば良かった。 • ブラインドサッカーについては理解できたが、パラリンピックについての理解を深めることができれば良かった。 • 団体のスポーツなので、何人かに来ていただくことができれば、よりブラインドサッカーの面白さを伝えることができたのではないかと思う。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 総合的な学習として特定の学年で学習をするのか、人権学習の中の 1 時間として全校児童が学習をするのかを考えていきたい。 • オリンピックだけでなくパラリンピックへの関心を高めるために他の種目についても取り組んでいきたい。